

# 田中研新聞

第139号

2024年  
12月1日発行

甲南大学知能情報学部田中研究室 ほぼ毎月発行  
http://carnation.is.konan-u.ac.jp  
編集責任 田中雅博

## 甲南大学・鹿児島大学合同 ロボット・コンピュータビジョン研究会

### 最終回を甲南大学で開催

11月22日



今回で11回目、最終回の甲南大学・鹿児島大学ロボットコンピュータビジョン研究会を、鹿児島大学から3名の先生をお迎えして、甲南大学13号館で実施しました。

今回は、過去最多の発表者で、鹿児島大学の先生3名、甲南から私と和田先生、さらに、宝塚医療大学の西教授、それに、鹿児島大学の13名、甲南田中研究室10名、和田研究室7名が発表しました。Zoomを使った、鹿児島大学の学生さんたちは発表しました。ネットワークの電波が弱く、途中何度か切れて、スムーズな運営ができませんでした。皆様のご協力を得て、何とか18時に終了することができました。

その後、教員達は三宮の寿司屋で食事をして、本会合を散会したのち、渡邊先生のご家族も交えて、楽しい雰囲気の中で懇親を行うことができました。

これで最後になります。長期間皆様のご協力を得て11回も実施することができ、大いに刺激を受けたことに感謝します。以下、発表者からの感想です。(田中)

**芦川 凜空**  
11月22日の鹿児島大学合同研究会に参加し、発表しました。自分は3度目の参加でした。鹿児島大学で去年聞いた研究の続きがあったり、面白い研究が多かったです。また、やはり共同研究が多いと思いました。色々なことが聞けて勉強になりましたが、自分の発表は反省点が多かったです。予定の発表時間を超過してしまいました。今後はそのようなことが無いように時間の確認と発表内容の調整が必要です。研究の最終段階に向けて、今回頂いた意見を反映させたいと思います。

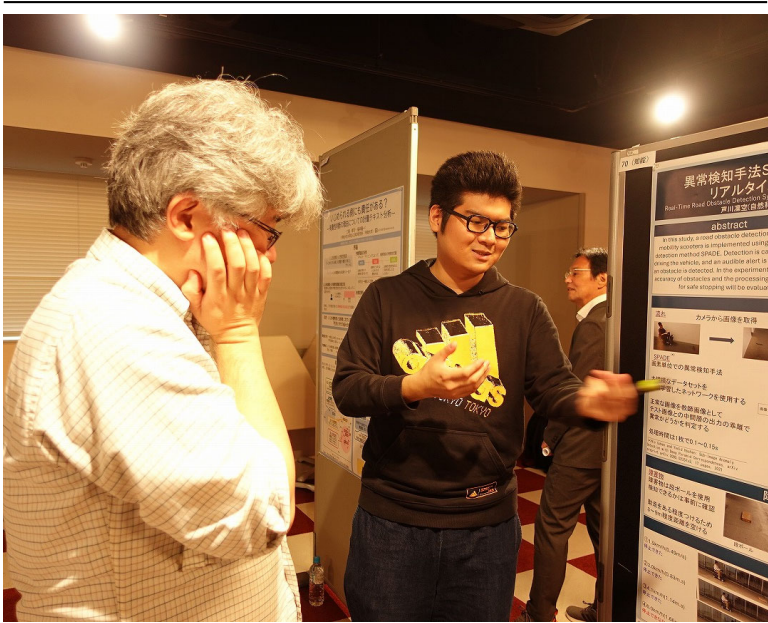
研究発表会お疲れ様でした。学会ではありませんでしたが、初めての外部への研究発表という事で、緊張感を持って臨みました。学部生にも学会発表に参加できる機会があることは知っていました。自分の研究が十分に進んでいなかったため参加を見送っていました。今回、鹿児島大学の修士・学部生の発表を拝聴し、自分に足りない点を多くあることを改めて実感しました。また、発表時の立ち居振る舞いについても改善すべき点を学びました。貴重な体験をさせていただき、心より感謝申し上げます。

**小南 俊輔**  
今回の発表会を通じて、限られた時間の中で自分の考えをまとめ他者へ伝えることの難しさを感じました。僕は今回のような発表をするのがこれまであまりなかったのですが、スライドを作成するときには載せる情報の取捨選択や話す順番などに悩みました。またほかの人の発表では、研究の目的や考察などの説明がわかりやすくまとめられてお

11月16日

## 研究成果発表会

### 芦川君が発表しました



自分は貴重な時間をいただきありがとうございます。参加してくださったみなさまの多種多様な発表を聞いて、自分の研究に対する考え方を改めて整理することができ、また視野が広がったように感じました。私たちの研究室では画像認識を中心とした研究が多いですが、それぞれの研究室の特色に沿った研究があり非常に興味深かったです。特に鹿児島大学のみならずの研究には企業などに実験協力してもらっているものも多く、個人では収集することができないデータな

**鈴木 亮太**  
今回は貴重な時間をいただきありがとうございます。参加してくださったみなさまの多種多様な発表を聞いて、自分の研究に対する考え方を改めて整理することができ、また視野が広がったように感じました。私たちの研究室では画像認識を中心とした研究が多いですが、それぞれの研究室の特色に沿った研究があり非常に興味深かったです。特に鹿児島大学のみならずの研究には企業などに実験協力してもらっているものも多く、個人では収集することができないデータな

**藤木 敬大**  
今回の甲南大学・鹿児島大学合同ロボット・コンピュータビジョン研究会において、それぞれの参加者が認識に関する技術を用いてシステムの構築し、その問題の改善のためにさまざまな実験や研究を行っていることが発表を通じて感じられました。研究室のメンバーだけでは解決が難しい研究課題についても、建設的な議論を通じて次に生かせるような意見交換ができた

自分自身の研究以外にも興味や関心を持つことができた、良い機会となりました。

**高見 友規**  
鹿児島大学合同研究会について、まず自身の発表時間については、3分という発表時間の中で大分急いだ発表になってしまい、お聞きくださった皆様には分かり辛い発表になってしまったかと感じました。3分という時間は事前に分かっていましたことなので、発表内容をもっとうまく言語化していればよかったと感じました。しかし、1月の発表に向けて大きな経験になったと感じます。鹿児島大学の皆様の発表は身近なテーマでありながら、その研究内容の深さに驚きました。特によく競馬を観戦する身としては、サラブレッドの状態判断の研究はとて興味深く、遺伝子のお話など非常に面白く感じました。

**三木 直澄**  
画像認識技術を用いた研究を行っていることから、自分自身の研究と共通する点や、自身の研究においても使用できそうな技術的発見、アイデアなどが多くあった。特に地籍調査書類の電子化の方の3頂点から最後の1つを推定するアイデアや、画像のガンマ補正により輝度を抑える方法、そこから着想を得た輝度の異なる画像を複数合成し輪郭を取得する方法など、実際に試したいと思うものがあり、とても有意義な発表会だった。自身の研究と発表に関しては、まだまだ改善すべきところが多々あるため、卒業までの期間で可能な限り精度と速度の向上に努めたい。

**福山 祐詞**  
合同研究会お疲れさまでした。普段の研究室内の進捗発表とは異なる環境での発表の機会や多種多様な研究発表、内容から多くの学びを得ることができ、とても貴重な経験になりました。また、自身の発表では内容の伝え方に課題が残っていると感じました。今回の研究会での反省点、い

11月16日(土)、自然科学研究科主催の、恒例の研究発表会がiCommonsのAgora Westminsterで開催されました。当研究室からは芦川君と張君がポスターを掲示し、芦川君がポスター前で発表しました。発表タイトルは、「異常検知手法SPADEによるシニアカー搭乗時のリアルタイム路面障害物検知システム」でした。知能情報専攻からは、これらを含めた、11件の発表がありました。2つ目の写真は、ベナンからの留学生アントニー君で、非常にわかりやすい日本語での受け答えができ、感動しました。将来は起業したいとのことですが、彼の成長を見守りたい

ただいたご指摘を基に今後の研究活動、発表に活かしていきたいです。改めましてこの度は大変貴重な機会をいただきました心より感謝申し上げます。

**中山 修斗**  
鹿児島大学の合同発表会では持ち時間4分と短い時間ながら、教授の方々から貴重なご意見を頂き、普段とは違う方向からのアプローチだったのでとても参考になりました。また、鹿児島大学の発表は自分たちと似ている分野でも自然に注目している研究が多く興味深かったです。この研究会を通して自分の研究に生かせることも見つかったので、残っている時間もあまりありませんが精進していこうと思います。

**福田 琉輝**

と思います。(田中)

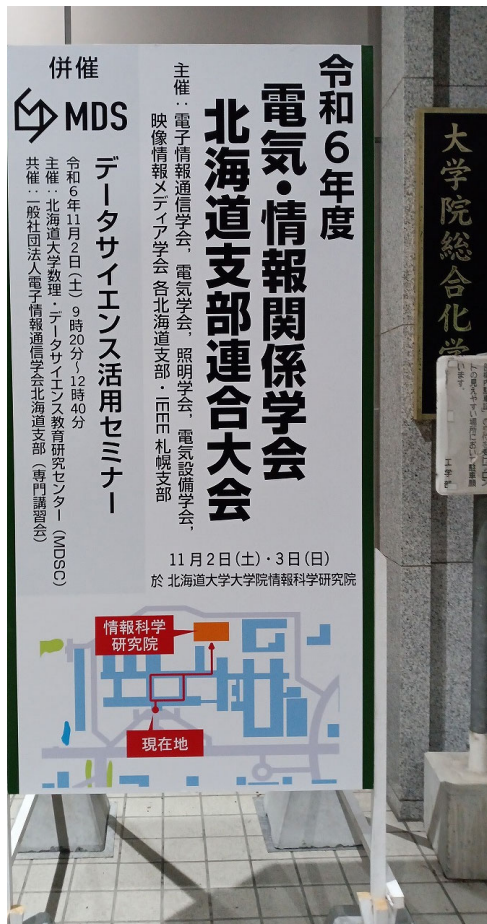
**発表者(芦川)からのコメント**  
11月16日の自然科学研究科研究成果発表会に参加しました。久しぶりのポスター発表でしたが、説明するところは、他の専攻の研究はわかりませんでした。こんな研究をしていると知ることができただけでも良かったです。質問についても多くもらったので、今後の研究に活かします。これらの経験を生かしてS12024で適切なポスター発表をしたいです。



# 田中教授、北大で発表しました

## 電気・情報関係学会 北海道支部連合大会

11月1日と2日、北大で開催された、電気情報関係学会北海道支部連合大会に参加し、「金尺を利用した画像認識による果物のサイズ測定」というテーマで口頭発表を行いました。11月初めの北海道は紅葉の真っ盛りです。左の写真は北大の中の銀杏並木ですが、多くの観光客が訪れていました。また、一步学外



に出れば、そこはもう北海道そのものです。エゾリスや野鳥に出会うことができました。私の発表したセッションはニューロコンピュータで発表しましたが、私以外の発表はまさに生体の物理的な話で、私の発表は、「ニューロコンピュータ」

違いという感じでした。しかし、聴衆の方は正しく理解していただき、多くの質問をいただくことができました。また、人工知能などのセッションでは、私の専門に近い多くの発表があり、興味深く聞くことができました。

私の発表が長くなったが、林望の最後に残る趣味は、詩だそう。ただ、同じ章には、料理、歩行、エッチングなどの趣味も書かれている。歩行は、散歩ではない、つまり、歩き続けることだそう。お金をかけてスポーツクラブに入り、ベルトの上を走ることについては、彼から見ると理解できないものがある。これは、私も同感。私は歩くだけでなく、カメラをもつて毎日撮影旅行に行っているようなものだ。ついでに言うと、私もゴルフのようなお金を掛けることに意義を見出すような趣味に興味がない。ゲートボールとだけ違うのだろうか。

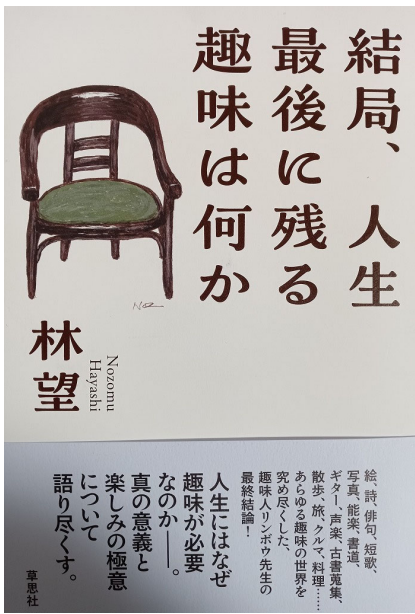
林望は、多趣味で、どれも捨てることのない趣味として大事にしているのだから、林望は、どの趣味も非常に高度なところまで行っていて、私など、どれ一つとっても、彼の趣味の足元にも及ばないが、退職後は、趣味を深めていきたいと思っ

ています。彼の本は手元に置いて、忘れないように読み続けたい。

### 書評

## 結局、人生最後に残る趣味は何か

林望



私が好きな作家のひとりである、林望氏の随筆が久しぶりに出たので、早速注文して、手元に届いた。林氏、というより、林望(りんぼう)と呼んだ方が通りのよい名前であるので、林望と呼ぶが、林望の本は、まさに彼のデビュー作である「イギリスはおかしい」からずっと彼の著作には目を通している。彼の著作の幅は広く、イギリス留学のときの経験をもとに

書いた、イギリスシリーズ(と呼ぶべき)や、料理、旅行など、幅広くすべてのことが興味の対象となっている。彼には、1冊、強烈な恋愛小説「マーシヤ」もあることを知っている人は少ないのではないだろうか。

今回の本のアマゾンのレビューを見ると、私同様、彼が好きで読んでいる人と、彼が嫌いなもの(飲酒、興味のない人付き合い)を

徹底的に嫌っていることに対する反発を感じている人などある。彼は、この本によって、自分のファンを増やそうと思っているわけでもなく、自分の主義主張や気持ちを書いて、共感してくれる人にそれを伝えていくだけであるのだから、そもそも別の人から見ると、100%共感することばかりというのは、おそらく始まったばかりの頃の恋愛感情のようなものであつて、普通は自分と同一化できるはずもなく、違ふところがあつて当然であろう。

林望は、私の7歳年上だから、そろそろ幕引きを考えておられるとも考えられるが、書ける間は書き続けてほしい。私の人生の指針となっている大事な一人である。

前置きが長くなったが、林望の最後に残る趣味は、

## 生成AIの驚くべき機能

### もはや、論文はAIがチェックをする時代です

ある必要性があつて、ChatGPTをはじめとする生成AIの機能についていろいろ調べているのですが、最近知った機能がありません。それを紹介しよう。

PDFファイルを投入して、「これを要約しなさい」と書いて、この内容について解釈を求めると、ほんの数秒という時間で、それをいままでは、普通のテキスト文章(文字列)にして、それを流し込むという方法でしか使ったことがなかった。まさか、2段組みの論文をそのまま入れるだけで何もかも解釈してくれるとは思わなかったのです。

私は興味を持ったので、自分の作成して出版に至らなかつたある日本語の論文を投入してみました。次のようなプロンプトを入れました。

この論文は査読に耐えると思えますか。ポジティブな要素が3項目示されました。実用性のあるテーマ、新規性の可能性、実験に基づいた検証。懸念点として、定量的評価の不足、先行研究との関係性の曖昧さ、説明の細かさ

と再現性、実験範囲の限定

### 予定



▼12月18日(土) 盛岡で開催されるSICEEISI講演会に参加(田中、芦川)、芦川君が発表  
▼1月25日(土) 卒研発表会  
▼2月10日(月) 修士論文発表会、博士公聴会  
▼2月12日(水) 最終講義(16:30~18:00)、退職記念パーティー(18:30~20:30)

その前に、自分が論文を書くときにこれを使って論文を書いていけば査読が通りやすくなるということでしょう。自分の論文を書くときに生成AIを使ったらいけないというルールはありませんから。

### 編集後記

私(田中)の退職まであと4か月となりました。4か月というはまだまだという感じもありますが、最終講義を設定したり、退職記念パーティーを企画したりし始めると、いよいよ終わりののだという実感が沸きます。

昨今の個人情報保護もあり、卒業生の住所など記録していないため、卒業生との連絡は困難を極めます。それでも、LINEのグループ機能が連絡に役立ちました。この田中研新聞を読んだ人で参加の意向のあるOBの人があれば、ぜひ田中に連絡してください。さて、最終講義をすることになり、本格的に内容の検討を始めました。まず、タイトルです。

### 彷徨いながら辿り着いた自分流

一試行錯誤をしながら専門を増やす